

# 議 事

## ( 3 ) コレカラプロジェクトレポートVol.3 について



## コレカラプロジェクトレポートVol.3とは・・・

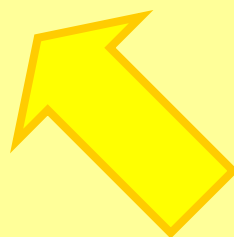
コレカラプロジェクトレポートVol.3は、「庄内川水系河川整備計画【直轄管理区  
間】」(原案)について、コレカラボイスVol.3でとりまとめられたご意見が河川整備計  
画(原案)に、どのように反映されたが分かりにくいため、河川管理者の考え方を示し、  
どのように考え、河川整備計画(原案)に反映したかを分かりやすく示したもの。

河川整備計画(原案)

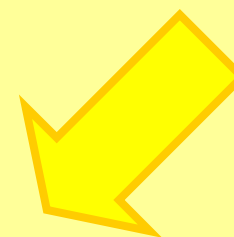


コレカラボイス3  
(住民等からのご意見)

コレカラプロジェクトレポート3

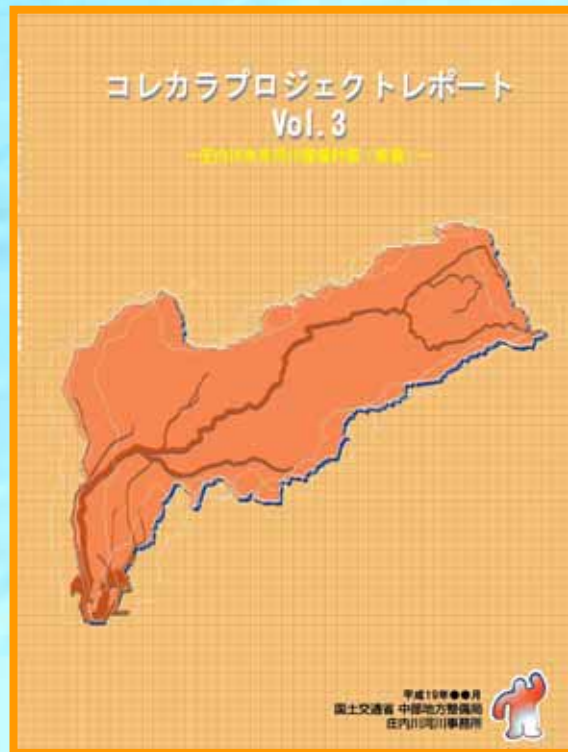


河川管理者の考え方



# コレカラプロジェクトレポートのVol.3の構成と予定

## コレカラプロジェクトレポートVol.3



- 第1章 本レポートの位置づけ
- 第2章 庄内川流域及び河川の概要
- 第3章 流域及び河川の現状と課題
- 第4章 河川整備の目標に関する事項
- 第5章 河川の整備の実施に関する事項
- 第6章 地域と連携した取り組み
- 第7章 庄内川水系河川整備計画(原案) 附図

第2章～第7章までは河川整備計画(原案)と同じ構成

コレカラボイス3及び、コレカラプロジェクトレポートVol.3は、「庄内川水系河川整備計画【直轄管理区間】」(原案)を提示するにあたり、流域市町での配架や庄内川河川事務所のHPにて掲載を予定。レポートVol.3の巻末にはご意見はがきを添付し、今後開催が予定されている、意見聴取のための公聴会等とあわせて、意見聴取を行うツールとして使用する。

# コレカラプロジェクトレポートVol.3のイメージ

## 河川整備計画（原案）

P.42

### 第3節 河川整備計画の目標

#### 第1項 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

##### 1 安全性の確保

洪水による災害の発生防止及び軽減に関しては、過去の水害の発生状況、流域の重要度やこれまでの整備状況など、庄内川の治水対策として計画対象期間内に達成すべき整備水準、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的整備なども含めて総合的に勘案し、観測史上最大の洪水となった平成12年9月洪水（愛知県区間）及び平成元年9月洪水（岐阜県区間）と同規模の洪水が発生しても、破堤等による甚大な被害を防止するとともに内水被害の軽減を図ることを本河川整備計画における目標とする。

河川整備計画において目標とする流量は、下流基準地点枇杷島においてそのピーク流量を3,900m<sup>3</sup>/sとし、このうち小里川ダム、小田井遊水地などの洪水調節施設により200m<sup>3</sup>/sを調節して河道への配分流量を3,700m<sup>3</sup>/sとする。上流基準地点多治見において、そのピーク流量を2,100m<sup>3</sup>/sとし、このうち流域内の小里川ダムにより200m<sup>3</sup>/sを調節して河道への配分流量を1,900m<sup>3</sup>/sとする。

また、河川整備計画の目標規模を上回る洪水及び整備途上段階での施設能力以上の洪水が発生し氾濫した場合においても、関係機関や地域住民が一体となって、自助、共助、公助のバランスのとれた地域防災力の再構築を図る。

表 3.3.1 河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	地点名	河川整備計画の目標流量のピーク流量	洪水調節施設による洪水調節量	河道への配分流量	備考
庄内川	枇杷島	3,900m <sup>3</sup> /s	200m <sup>3</sup> /s	3,700m <sup>3</sup> /s	平成12年9月東海豪雨対応
	多治見	2,100m <sup>3</sup> /s	200m <sup>3</sup> /s	1,900m <sup>3</sup> /s	平成元年9月洪水対応

P.43

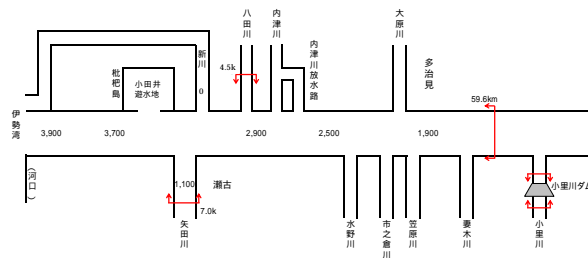


図 3.3.1 河道の整備目標流量配分図

河川整備計画の目標とする平成12年9月東海豪雨規模の洪水時には、新川洗堰による庄内川から新川への越流量0m<sup>3</sup>/sとするが、東海豪雨を上回る規模の洪水が発生した場合には、新川洗堰から新川に越流する。

## 頂いたご意見 = コレカラボイス3

### 【頂いた意見の要旨】

河川の背後地、流域の保水力、上下流や本支川、流域全体などを考慮するとともに、市民や地域の感覚に合った具体的でわかりやすい目標を立てることが期待されています。なお、減災の視点も重要視されています。

また、目標値としては、下流部では東海豪雨を基準としたレベル、ポンプ運転ができるレベル、上流部では平成元年レベルや現状レベルなど、過去の経緯や現状に応じた値の設定が求められています。

### 【頂いた主な意見の概要】

#### <流域委員会>

- ・計画規模に関わる目標レベルについてわかりやすく説明してほしい。
  - ・治水の安全度を「床下浸水を防ぐ整備を目指す」と表現するなど、住民感覚に合う目標が出来ないか。
  - ・背後地の状況に応じた安全度とする考え方もある。
  - ・河川だけではなく、流域全体を考慮すること。
- 現段階では豪雨時における流域の保水力の効果を見込むことが難しく、治水の計画に見込むのではなくプラスとして考えるべき。

・治水面では、公助のできる限度を伝え、自助、共助を住民に求めていくべきである。

#### <市民意見交換会の提言>

- ・上下流域や支川域の地形的特性や相互の関連性、リスクに応じた治水・防災対策を進める必要がある。

#### <市民の意見>

- ・下流の対策状況を考慮して上流の計画流量を検討すべき。
- ・洪水時にポンプを止めなくて良い程度の整備をすべき。
- ・東海豪雨クラスの豪雨に対処できるよう整備すべき。
- ・東海豪雨の規模にとらわれず、安全な治水整備を実施すべき。

## 河川管理者の考え方

河川整備計画の目標流量は、過去の水害の発生状況、流域の重要度やこれまでの整備状況など、庄内川の治水対策として計画対象期間内に達成すべき整備水準、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的整備なども含めて総合的に勘案し、観測史上最大の洪水となった平成12年9月の東海豪雨（愛知県区間）と平成元年9月の洪水（岐阜県区間）と同規模の洪水を対象としています。

目標規模を上回る洪水及び整備途上段階での施設能力以上の洪水が発生した場合でも被害をできるだけ軽減することを目標とし、河道整備と合わせて関係機関や地域住民が一体となって、自助、共助、公助のバランスのとれた地域防災力の再構築を図ります。防災対策の整備も推進していきます。